

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立吉野小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒837-0912

福岡県大牟田市大字白銀 967 番地 17

E-mail yoshino-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/yoshino-es/

幼児児童生徒数 男子 202名 女子 207名 合計 409名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

(記入例)

本校では、ホールスクールアプローチをESD推進の理念として、学習のテーマを①「エネルギー・環境」に係わる活動、②「国際理解」に係わる活動、③「生命（いのち）」に係わる活動の3つを重点として各学年の発達段階に応じて学習に取り組んでいる。

具体的には「エネルギー・環境」は、「持続可能なエネルギー問題や環境教育」で、子ども達の身近なエネルギー・環境の様子について、「国際理解」は我が国や地域の文化・歴史等と身近な外国の文化・歴史等について、「生命（いのち）」は、自分の命や他者の命の大切さや、成長や福祉（高齢者・障害のある方）等について学習してきた。これらの持続可能な開発のための教育（ESD）の学習に取り組む際に、本年度工夫した点は「自らの問いを持って取り組む課題解決学習の工夫を通して」をテーマとしことである。そこで、ESDで育みたい能力や態度を育ませるために、子どもたちが思考力を大いに発揮し、コミュニケーションを活性化・課題追求できるように、子どもたちの主体的・協働的な学びを大切にしたい課題解決活動を位置づけた学習展開を工夫した。

①「エネルギー・環境」に係わる活動

持続可能な社会づくりに関わる課題を見出すための視点として、有限性、多様性、責任性を中心として取り組んだ。4年生の「生き生きビオトープ大作戦」では、ビオトープの管理人として、自分たちにできることを考え、友達や地域の方々と協働で日本固有種を守り育てていく活動を通して、吉野小のビオトープを、“命の場所”として守り育てていきたいという思いを持ち、先輩から受け継いだビオトープを誇りに思うとともに、生物多様性の意味やそのすばらしさを知ることができるようにした。

②「国際理解」に係わる活動

持続可能な社会づくりに関わる課題を見出すための視点として、相互性、連携性を中心として取り組んだ。5年生「吉野小桜プロジェクト2017」では、吉野小のシンボルである桜に対する先輩や地域の方々の思い・願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通した町づくりについて考えて実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからについて考え、地域に貢献したいという思いを持つことができるようにした。

③「生命（いのち）」に係わる活動

持続可能な社会づくりに関わる課題を見出すための視点として、公平性、多様性を中心として取り組んだ。6年生「大牟田の未来をえがこう（福祉）」では、高齢化社会における認知症の方に関する問題を調べる活動や認知症の方へのサポートの仕方を学ぶ活動を通して、他者を理解し、心に寄り添うためには、自分には何ができるか考え実践した。地域の方々とつながり協働しながら未来の大牟田に希望を持ち郷土愛を深めることができるようにした。



①の写真（ビオトープの清掃活動）



②の写真（地域の方との交流活動）



②の写真（桜の植樹する活動）



③の写真（認知症の方への声のかけ方を学ぶ）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 課題を見出す力)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 道徳)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<ul style="list-style-type: none">・ 副読本 わたしたちの大牟田・ 子ども大牟田検定ガイドブック（大牟田市教育委員会）・ 石炭科学資料館 HP・ 『いつだって心は生きている』（認知症ケア研究会）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の教育目標は、「持続可能な社会づくりを担う、心豊かでたくましい吉野の子どもの育成」であるため、ホールスクールアプローチとして取り組んでいる。そこで、全教育活動の全体指導計画を作成し、実践している。また、ESDで身に付けさせたい能力・態度を本校独自に3つに整理し、目指す子どもの姿を明確にしている。目指す子どもの姿を基に、各全体指導計画の内容における内容を吟味・検討している。

主題研究においても、「持続可能な社会づくりについて、自分の考えを持ち、行動する子どもの育成」と題して、自らの問いを持って取り組む課題解決活動の工夫に取り組んでいる。特に、子どもたちの切実感、必要感のある課題を設定できるような教材や導入の工夫を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務運営組織にユネスコスクール担当者を位置づけている。ESDの推進は教育課程全体に関わるため、ユネスコスクール担当者は、教務担当が兼任している。また、主題研究においてもESDに取り組んでいるため、毎月行われる研究推進委員会において、これまでの活動の振り返りや今後の方向性の検討・確認を行い、全職員が共通理解して進められるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

校内においては、職員におけるESDの取組の自己評価や子どもたち自身による自己評価（ESDで身に付けたい能力・態度の視点から）を実施し、改善策の具体化を図っている。外部においては、学校評価の項目にESDに関する内容を設定した。その事を基に、学校評議員、学校関係者評価委員、保護者代表に評価してもらっている。地域の方々にはESDの価値を分かってもらえるようになってきている。今後は、校内の課題の分析を充実させ、課題を絞っていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ユネスコスクール全国大会大牟田大会の日程にあわせて、本校の取組の一端を公開授業として発信した。また、本校の特徴となる「桜プロジェクト」などの取組の際には、Mボードで発信したり、地元新聞に掲載してもらったりして発信した。そのことにより、地域の方々から本校の桜プロジェクトの認知度が高まると共に、活動へ協力してもらう機会が増えた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

大牟田市ユネスコスクール支援センターを活用し、他地域のユネスコスクールの情報を活用している。また、ASPUnivNetへ加盟している福岡教育大学教授に研究会の際に講師として招聘し、授業づくりやサステイナブルスクールとしてのあり方等について指導・助言を受けている。また、子どもたちの発信の場として、地域の公民館や新大牟田駅構内に掲示物を展示してもらうよう依頼している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

市内のユネスコスクールとの交流としては、本市教育委員会が開催している「ユネスコスクール子どもサミット」へ参加し、実践交流を行っている。また、本市の4つの小学校と共同して「未来へつなぐ大牟田の川と有明海の海洋プロジェクト」取り組むと共に、作品による実践交流を行っている。市外においては、八名川小学校の研究会に参加し、研修を深めた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

平成25年よりESDの推進を行い、地域への発進も行ってきた。その結果、吉野小桜プロジェクトの取組に共感された地域の方々、保護者が「さくら絆プロジェクト」を結成され、子どもたちの活動を支援してもらっている。また、学校と地域で「さくらでつなぐ吉野のまちづくり」というまちづくりについての目標を共有化し、協働して行っている。「絆プロジェクト」の活動としては、子どもたちにはできない活動をサポートしてもらったり、絆プロジェクト独自の活動を検討されたりし、とても活発である。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

学校教育目標を「持続可能な社会づくりを担う、心豊かでたくましい吉野の子どもの育成」とし、学校全体で取り組む。その際、教育活動のみにとどまらず、学校全体としてESDの視点からの取組を考え、ホールスクールアプローチとして次のように進めていく。

①授業づくりについて

主題研究においては、ESDを主題として取り組み、子どもたちの主体的・対話的で深い学びを促していく。

②教科等の関連の充実

生活科・総合的な学習の時間と各教科・領域等との関連を明確にしたストーリーマップ（学習指導計画）の充実を図り、総合的・横断的な指導を行う。

③ESDの活動の広がり

子どもたちが主体となってESDに関する集会を行い、子どもたちの発信の場や気候変動に関する問題提示の場とする。

④職員室のESD

職員室内における職員の過ごし方をESDの視点から改善していく。